

敬老関連事業の見直しについて

【現状の課題】

近年、寿命の延伸とともに65歳以上を一律に高齢者とみる一般的な傾向が実態と乖離しており、敬老事業においては、対象者の増加に伴う事業費の増加、世代間・対象者間の公平性、近隣自治体との差異などの課題がある。

しかし、これまで地域社会を支えてきた高齢者への敬愛を表す敬老関連事業は重要であるため、「選択と集中」の考えのもと、持続可能な敬老関連事業の実施を検討している。

【具体的な方策】

「敬老会」「敬老記念品」「敬老祝金」について、対象者の増加に伴う事業費の増加、世代間・対象者間の公平性、近隣自治体との差異などを考慮し、見直しを行う。

敬老関連事業の現況

- ◇「敬老会」の開催
- ◇「敬老記念品」の贈呈
- ◇「敬老祝金」の贈呈

令和7年度実績額 83,141千円

参考

H24外部評価：C評価

- ・「財政状況から判断して継続が困難であると判断されるものや公平性を欠いているものが見られ、取組みについて抜本的な見直しが必要である。」と指摘。

⇒指摘を踏まえ、これまでに見直しを行ってきたが、高齢化が進展する中、再び指摘時と同等以上と認められる状況となっている。

これまでに見直しを行った事業

【敬老記念品】

H15までは、満70歳以上の方全員に記念品を贈呈
H16からH25までは、満70歳を対象に記念品を贈呈
H26から、年度内に77歳になる方を対象に記念品を贈呈

【いきいきセントー】

H27をもって廃止

【敬老祝金】

H25をもって77歳(2万円)を廃止

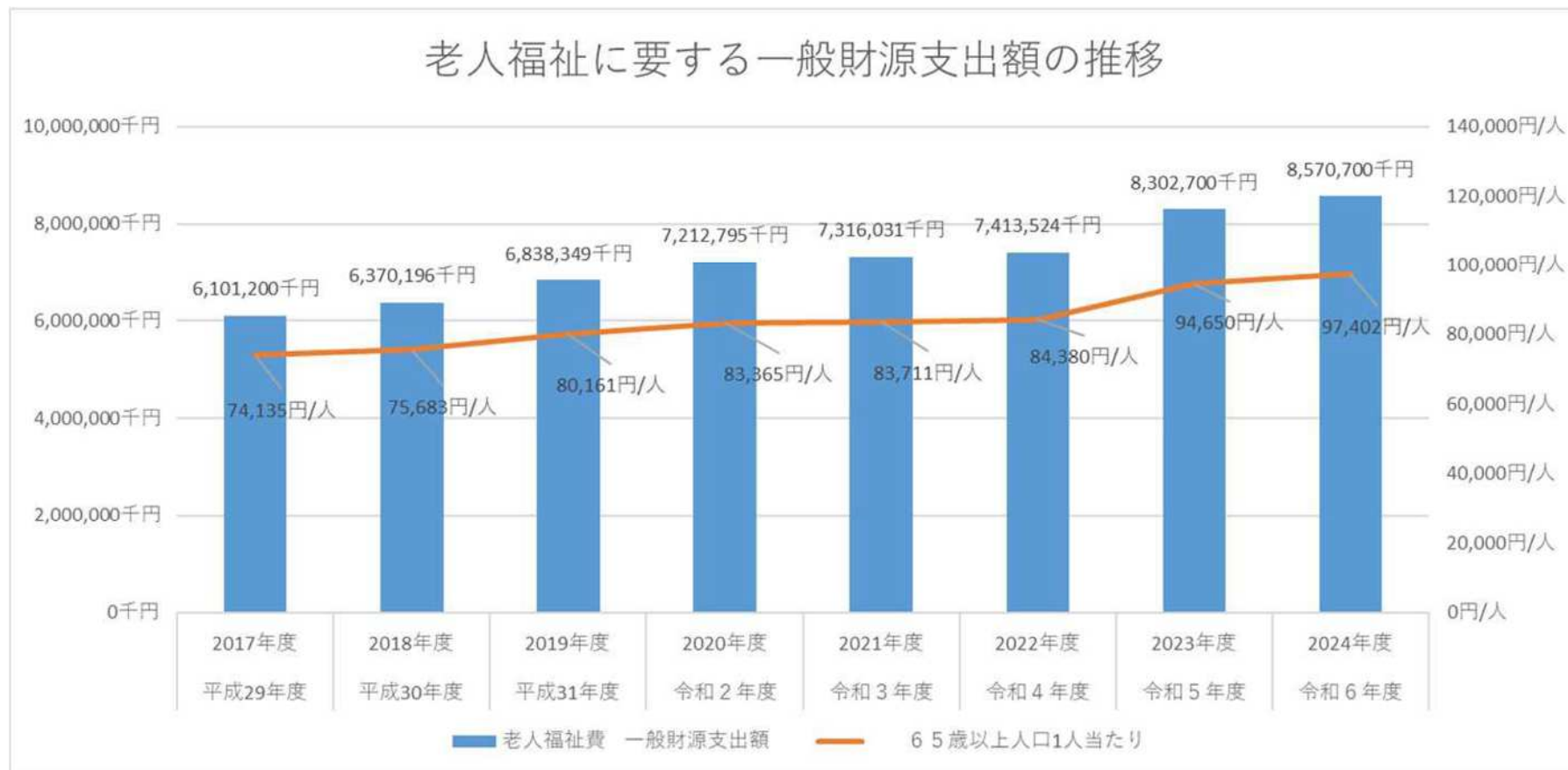
【シルバーカレッジ】

R6をもって廃止

【いきいき農園】

R11をもって廃止

老人福祉に要する一般財源支出額の推移



【一般財源とは】

事業費から国県の補助金や負担金、使用料など用途を特定された財源を差し引いた額で、市税や地方交付税などを原資として賄われる財源です。

市の財政に与える実質的な負担を表しています。

【推移の分析】

高齢者数の増加はもとより、65歳以上人口1人当たりの支出額も増加し、一般財源支出額も右肩上がりに増加している。

今後も高齢化に伴い支出額の増加が見込まれます。

敬老事業の見直し案とその効果額（試算）

種別	事業名	対象年齢	現状（令和7年度実績）		見直し後		備考		
敬愛事業	敬老会への招待	満75歳以上	参加者	4,598人	R9まで実施				
			対象者	53,868人				以降は検討を進める	
			参加率	8.5%					
			執行額	5,067千円					
	敬老記念品の贈呈	77歳	品名・単価	今治タオル・@2,541円	廃止				
			対象人数	4,543人					
執行額			11,544千円						
長寿祝事業	敬老祝金の贈呈	88歳	単価	@30,000円	@20,000円				
			対象人数	1,921人					
			執行額	57,630千円					
		99歳	単価	@50,000円	廃止				
			対象人数	94人					
			執行額	4,700千円					
		100歳	単価	@70,000円	@50,000円				
			対象人数	60人					
			執行額	4,200千円					
					合計	83,141千円			

単位：千円									
年 区分	2017年 平成29年	2018年 平成30年	2019年 令和1年	2020年 令和2年	2021年 令和3年	2022年 令和4年	2023年 令和5年	2024年 令和6年	2025年 令和7年
実績額	40,727	44,823	44,954	53,423	57,581	58,430	73,781	73,479	78,074

単位：千円									
年 区分	2027年 令和9年	2028年 令和10年	2029年 令和11年	2030年 令和12年	2031年 令和13年	2032年 令和14年	2033年 令和15年	2034年 令和16年	2035年 令和17年
現行	74,044	79,035	85,241	94,324	91,293	95,681	83,579	72,121	93,152
見直し案	39,268	43,343	48,040	53,698	52,403	54,921	46,876	39,211	52,030
差額	△34,776	△35,693	△37,201	△40,626	△38,889	△40,760	△36,703	△32,910	△41,122

※敬老会事業費（5,000千円）は除く

※シミュレーション前提人数は、令和7年度に行った人口推計における令和17年（2035年）時点の推計値に基づき試算

近隣市の敬老祝金贈呈額の状況

	70代	88歳	99歳	100歳	総額	
越谷市（現行）	0	3万円	5万円	7万円	15万円	
春日部市	0	2万円	0	5万円	7万円	※105歳に8万円 110歳に20万円
草加市	0	3万円	5万円	0	8万円	
川口市	0	1万円	3万円	0	4万円	
さいたま市	0.5万円	2万円	2万円	1万円	5.5万円	※100歳以降 各年齢で1万円
川越市	0	2万円	0	5万円	7万円	
他市平均	0.2万円	2万円	2万円	2.2万円	6.3万円	

考察

近隣市においても敬老祝金事業が行われているが、祝金の額及び贈呈年齢は様々である。

100歳までの贈呈総額で比較すると、本市の現行が15万円であるのに対し、他市の平均は6.3万円となっており、本市の贈呈額が突出している状況である。

また、全国の自治体に目を向けてみると、財政状況や世代間の公平性等を踏まえ、廃止または縮小を検討、実施する自治体も散見されており、少子高齢化が進展する社会情勢の中、従前と同様の敬老祝金事業の継続が困難になっていることをうかがわせている。

近隣市の敬老祝金調査結果

参考								越谷市		人口	342,327人		
										高齢者人口	87,892人		
県内敬老事業の比較										高齢化率	25.67%		
人口は全てR7.1.1時点													
	さいたま市	川口市	川越市	所沢市	春日部市	草加市	八潮市	三郷市	吉川市	松伏町			
人口	1,350,500人	607,447人	352,805人	342,520人	229,656人	251,992人	93,655人	142,152人	72,396人	27,857人			
高齢者人口	315,138人	139,181人	95,678人	94,919人	72,060人	61,543人	20,902人	38,669人	17,770人	8,490人			
高齢化率	23.33%	22.91%	27.12%	27.71%	31.38%	24.42%	22.32%	27.20%	24.55%	30.48%			
敬老会	地域で実施される敬老会に対する補助金 75歳以上1人あたり1,200円 R8補助金予算：約235,000,000円	無し	無し	無し	市で式典を実施 R8委託料予算：約4,800,000円	10地区で実施される敬老会に対する補助金 R8補助金予算：約7,700,000円	無し	無し	無し	無し			
敬老記念品	市内10区の最高齢者 記念品10,000円 花束5,000円	無し	無し	77歳：狭山茶 88歳：狭山茶（金粉入） 100歳：メダル	101～104歳、106～109歳に記念品	100歳：地場産品、お菓子詰め合わせ、額縁、写真立て 101歳以上：地場産品、カタログギフト	無し	無し	無し	無し			
敬老祝金	75歳：5,000円 80歳、85歳、90歳、95歳、100歳以上の各年齢：10,000円	88歳：10,000円 99歳：30,000円	88歳：20,000円 100歳：50,000円 最高齢：50,000円	無し	88歳：20,000円 100歳：50,000円 105歳：80,000円 110歳：200,000円	88歳：30,000円 100歳：50,000円	80歳：10,000円 88歳：20,000円 100歳：50,000円	77歳：10,000円 88歳：20,000円 99歳：30,000円 100歳：100,000円	88歳：10,000円 99歳：10,000円	88歳：10,000円 99歳：30,000円			
見直し経過		敬老祝金 R7～ 77歳：5,000円廃止 88歳：20,000円→10,000円 99歳：50,000円→30,000円	敬老祝金 R5～ 77歳：10,000円廃止 99歳：30,000円廃止 100歳以上：50,000円廃止	敬老会 R2～廃止		敬老祝金 R3～ 77歳：20,000円廃止	敬老祝金 H31～ 77歳、90歳、99歳、101歳以上を廃止						